

無常の風時を嫌わず

仏教童話より

無常の風、時を選ばずともいう。「生者必滅・会者定離」といつて、生きているものにはやがて必ず死が訪れ、また出会ったものも必ず別れの時がくる。

しかもそれは、いつ来るかわからない。老若時節にかわりなく、いつどのように訪れるのかわからないのである。それ故に私達はこの一瞬一瞬を大切に、今出来ることは今すぐにするように毎日の生活の中で心掛けなければなりません。

昔、印度の国で一人の坊さんと商人が旅をしていた。靴が汚れたので坊さんが拭こうとすると、商人は「汚れたからといって拭いても、旅は未だ一週間もある。また汚れるから同じですよ」と言った。坊さんは、ただ黙って自分の靴を拭いた。すると、商人は笑った。

しばらく行くと、昼になり、丁度茶店があつたので、商人が「お昼ご飯にしましょう」と言った。と、坊さんは、「それはよかるう。だが、今食べてもまたお前、腹がへるから同じではないか。やめとけ、やめとけ」と言っ先に行ってしまった。商人は、はっと気がつき、お坊さんのあとを追いかけて謝りました。

お坊さんは、「そうか、それに気がついたか。よかつた、よかつた。今出来ることは今しなさいよ。人間少しでも仕事をすればそれだけ進歩するのであつて、丁度歩く時も右足と左足を一度に出せないのと同じように、小さなことでも一つづつ、今出来ることを片付けていくことがたいせつなんだよ。そして、それを永く続けることだよ。仏様はこのことを教えられたのだ。誰も見ていなくても、仏様はいつもちゃんと見ておられるのだよ」と諭されたという話があります。

「無常の風時を嫌わず」、私達はこの言葉の中の深い意義を悟って、精進努力を積み重ねていかなければなりません。

無常の風 時を嫌わず

佛典

曹 洞 宗

神奈川県第二宗務所

第五教区 布教部・出版部

「無常」は、仏教でもっとも大切な教えの一つです。昔から伝わる説話集や、お釈迦様の説かれた例話の中にも、表題のようなたとえ話がたくさんあります。「今」の一瞬を大切にするとところに仏道に生きる原点があるわけです。

道元禅師も『学道用心集』のなかで、「誠にそれ無常を觀する時、吾我の心生ぜず、名利の念起らざる。…いわゆる菩提心（悟りを求める心）とは、無常を觀する心、すなわち是れその一なり」と説かれています。無常の風には休息の時がないのであります。